



case 03

製造業

三州製菓株式会社

「1人3役」制度で プラスの循環が生まれる

不意の仕事に対応できるように始めた「1人3役」を1999年より制度化し全従業員に適用推進した結果、お互いに仕事の代行ができることで、休暇を取得しやすくなっただけでなく、部署を超えたコミュニケーションが必然的に増えました。社内の風通しが良くなるとともに、各従業員の自発的な学びの姿勢を引き出しています。また、社長自ら様々なメッセージを発信し、目指す会社像を従業員と共有、実行しています。

企業プロフィール

設立: 1950年

本社所在地: 埼玉県春日部市

事業内容: 製造業 (せんべい、あられなど的高级米菓の製造販売)

従業員数: 216名 (うち女性172名)

管理職は「支援職」との思想で従業員を支援、 委員会活動を通じて職場環境の改善と積極的な 制度の周知

当社では社長および管理職は「支援職」と呼び、従業員を支える役割を担っています。社長自身、従業員の様々な働き方を積極的に支援したいとの考えで、ブログ、朝礼などを通じてメッセージを発信しています。また、職場環境のさらなる改善のため、正社員・準社員にかかわらず様々な部署からメンバーが集まって、現在13の委員会が発足しています。「男女共同参画委員会」では、「女性の活躍推進」をテーマに、その方法の検討や周知を行っています。例えば、育児休業は知っていたが、子の看護休暇制度は知らなかったといった声も聞いたので、制度の周知のために、グループウェアによる発信や社内掲示、部署ごとの朝礼、ミーティングなどで所属長より伝えるなど工夫しています。

特徴的な制度と取組み

- 部長以下全従業員対象の「1人3役」制度。
- 育児休業取得期間のうち1日分を有給化。
- 委員会活動や朝礼を通じた積極的な制度周知。



総務部 マネージャー
板垣 千恵子

「1人3役」制度により休みの取得が容易になるとともに、コミュニケーションも活発に

当社の特徴的な取組みとして、1999年に制度化された「1人3役」制度があります。これは、繁忙期以外に各従業員が自ら他の職務担当者に申告しその業務を教えてもらう制度で、他部署の職務を希望してもよく、上長の承認を得る必要もありません。きっかけは工場内の従業員の休みが重なった際に職務を共有する必要が出てきたためですが、現在では全部署で部長以下全従業員が対象となっています。習得した業務については、「見習い」、「担当」、「玄人」などのレベルで表現され、毎年、全従業員の習得範囲とそのレベルを記載した一覧表を作成するため、本来の担当者が不在の場合もすぐに代行可能な他の従業員がわかります。例えば、部長も他の業務について「見習い」レベルを取得しており、担当者が忙しそうであれば、見習いとして手伝えることはあるか、などと声をかけるのです。この取組みの結果、休暇を取りやすくなったことに加え、社員同士で直接仕事を教え合うため、コミュニケーションが活発になりました。入社当時は、皆この制度を聞いて3役もできるのかと驚きますが、様々なスキルを積むことができ自信にもつながっています。

男性の育児休業取得を促進するため育児休業 1日分を有給化

1人3役など工夫はしてきましたが、男性で育児休業を取得する人がなかなかいなかったため、育児休業のうち、1日分は有給として取り扱う制度を導入しました。きっかけは、社内の男性社員へのアンケートで「業務上長期は休めない、1~2日であれば休める」、「無給なので給与面で不安がある」といった声があったためです。1日分を有給化した結果、昨年1名、今年は1名の男性社員が利用しました。

従業員の声

育児休業第1号として、後輩のためにも
やりがいのある仕事を続けたい



企画部
小菅 恵美

● 利用した制度: 育児休業、短時間勤務

私は育児休業を取得しましたが、10月に出産だったため、出産1年後にはタイミング的に保育園に入れることができず、結局4月の保育園入園のタイミングまで待って1年半の間育児休業を取得しました。出産前は企画部に所属しており、お客様への迅速な対応が必要なお仕事が多かったので退社は20時になるときもありました。復帰後、8時30分から17時15分までの定時勤務で勤めるつもりでしたが、実際に子育てしてみると、定時まで仕事をしてから帰宅してご飯やお風呂の準備となると、子どもの就寝時間が遅くなり、子どもの負担が大きいに気がきました。そこで、短時間勤務を希望したいと相談し、現在は、9時から16時までの短時間勤務をしています。こうしたことはなかなか出産前にはわからず、その都度、会社側と話し合いを行い対応してもらいましたが、会社には事情を受け入れてくれる雰囲気があるので助かりました。所属は以前と同じ部署ですが、担当を変更し、16時までに帰れるよう仕事のボリュームを調整してもらいました。今のところ、子どもが3歳になるまでは短時間勤務を続けたいと考えています。以前は夜遅くまで対応し仕事に没頭していましたが、現在のワーク・ライフ・バランスは、全体を10とした場合、育児4、仕事4、家事2の割合で、割り切って家事に手を抜くことでなんとかやりくりをしています。もともと製菓に携わることが好きですし、企画の仕事は私にとって非常にやりがいがあり、生活の前提でもあります。楽しいと思える仕事に出会えたことは幸せだと思っています。私は正社員で育児休業を取得した第1号なので、後に続く他の女性のためにも頑張っていきたいと考えています。